

都民が自分自身の希望するケアについて考えられるようになる

◎ 自分が希望するケアを考える本人

一人一人が自分の人生について「大切なもの」「よりよく生きる」とは何かを考え、医療や介護について、家族や医療介護従事者と話し合い、自分以外の人に希望を共有しておくことで、自分の望まない医療と介護を避け、自己意思が尊重された医療と介護を受ける準備を進めることができるようになる。

◎ 本人に関わる支援者以外の家族及び関係者

身近な人、大切な人の医療・ケアについて考え、話し合いに参加できるようになる。

・積極的医療だけでなく、治し支える医療について啓発し、終末期の医療・ケアに対するイメージを都民が持てるようにする。

(選択肢の提示)

・社会の中で「自分の人生の最終段階」について考え、話すことがポジティブに受け止められる雰囲気醸成

(本人・家族における話し合いの重要性の認識)

・自分または家族の医療・ケアについて考え、家族間で話し合う機会の創出

(きっかけづくり)

○ **「わたしの思い手帳」**を作成・配布し、都民自身が希望する医療・ケアについて考える機会を創出。

※ 4年間で16.5万部（本編・書き込み編計33万冊）を印刷・配布）

○ ACP普及啓発のための**リーフレット**を作成。サンプルを区市町村、各関係団体、病院等に配布。（R5）

区市町村、医療機関、介護施設等が印刷して活用できるよう、PDFデータを東京都のHPに掲載中。

○ **「わたしの思い手帳」、リーフレットを活用した普及啓発の促進**

○ **更なる普及啓発方法の検討**

(R5 ACP推進部会の主なご意見)

- ・「ACP」という言葉を前面に出さず、「わたしの思い」「これからどう生きたいか」など都民に関心を持ってもらいやすい言葉を打ち出す広報を行う
- ・入院時や外来時、地域包括支援センターと関わるタイミング等、都民が機会を逃さずACPに取り組めるよう、重層的に普及啓発に取り組むことが大事
- ・「わたしの思い手帳（書き込み編）」のデジタル化の実施（＝ACP特設サイトの開設として検討）

ACP特設ページの開設について（案）【1 / 2】

現状

- ①インターネット福祉保健モニターアンケート（R4）によると、ACPを「知らない」が64.6%、「聞いたことはあるがよく知らない」が21.3%で、8割以上の都民がACPについてほぼ知らないと回答（世代間による結果の差はほぼなし）。
- ②都におけるACPの普及啓発の主な手段として、「わたしの思い手帳（本編/書き込み編）」を郵送にて配布。本編/書き込み編ともにPDFデータをHPに掲載。
- ③「わたしの思い手帳（書き込み編）」に自身の思いを書き込むには、冊子を郵送等で入手するか、HPからPDFデータをダウンロードして印刷した上で書き込む必要がある。

課題

- ①より一層の都民への普及啓発が必要。高齢者はもちろん、若い世代（本人のACP、本人の親のACP）に対する普及啓発にも取り組む必要。
- ②「わたしの思い手帳（本編）」を端末上で閲覧するにはデータを端末にダウンロードしなくてはならず手間がかかる。またスマホやタブレットで閲覧するには、目的のページにすぐにたどり着くことができない等の不便さがある。
- ③「わたしの思い手帳（書き込み編）」に端末上で記入することができず、データとして保存することができない。

取組の方向性

幅広い世代、特に高齢者を親に持つ若い世代への普及啓発を目的として、**ACP特設ページを作成**する。

ACP特設ページの開設について（案）【2 / 2】

特設ページ（案）

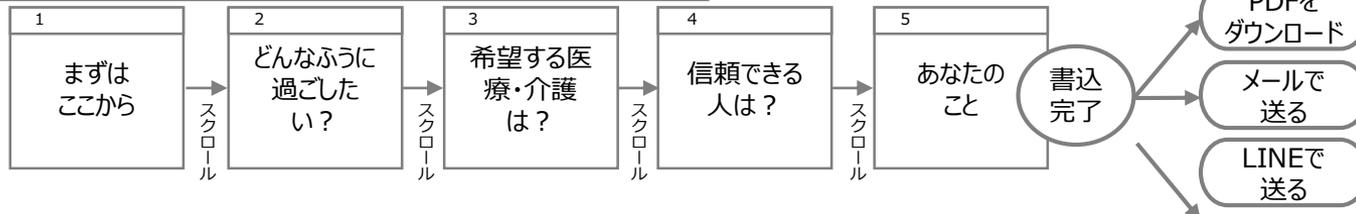
トップページ

web版「わたしの思い手帳（本編）」



【ポイント①】
ITリテラシーが十分でない方も容易に活用できるよう視認性、操作性の高いページを作成し、幅広い世代へ働きかける。

web版「わたしの思い手帳（書き込み編）」



【ポイント②】
Web上のコンテンツとして「わたしの思い手帳（本編）」を閲覧できるようになる。

【ポイント③】
自分の端末上で「わたしの思い手帳（書き込み編）」に記入できるようになる。更に、家族等や医療介護関係者との共有も便利に。

電子ブック



【ポイント④】
電子ブックで冊子を閲覧できるようになる。

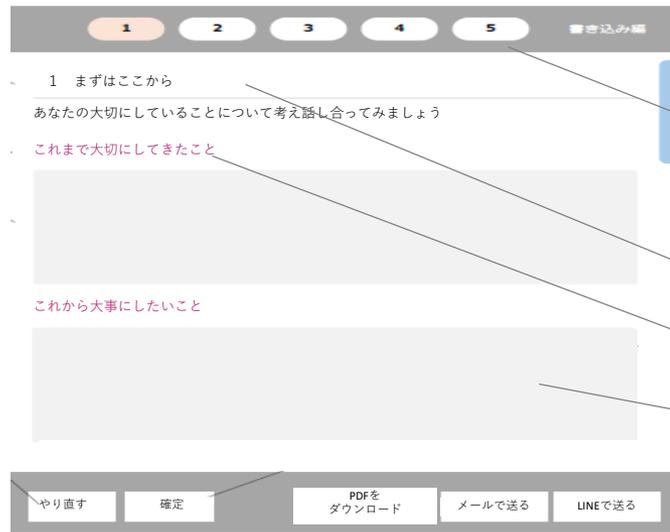
PDF



関連リンク集

- ・ 厚労省ページ
- ・ 各自治体の取組のページ
- ・ その他

【書き込みページのイメージ】



- 画面スクロールに連動してページ遷移
- 大項目
- 小項目
- テキスト入力エリア